

アウンサンスーチーとミャンマー政治の新たな展開

伊野憲治

はじめに

- ・ 1988年9月～2011年3月29日 軍政時代
 - 2008年5月29日 新憲法制定
 - 2010年11月7日 総選挙実施
 - 2011年11月13日 アウンサンスーチーを自宅軟禁より解放
- ・ 2011年3月30日 新政権誕生、テインセイン（首相）が大統領に、ティンアウンミンウー（国家平和発展評議会[SPDC]第一書記）及びサイマウンカン（シャン人）が副大統領に就任。
- ・ 2011年11月4日 政党登録法改正
- ・ 2011年11月25日 国民民主連盟（NLD）政党登録を申請
- ・ 2011年11月30日 アウンサンスーチー、2012年国会議員補欠選挙への出馬表明
- ・ 2012年4月 アウンサンスーチー、補欠選挙で当選

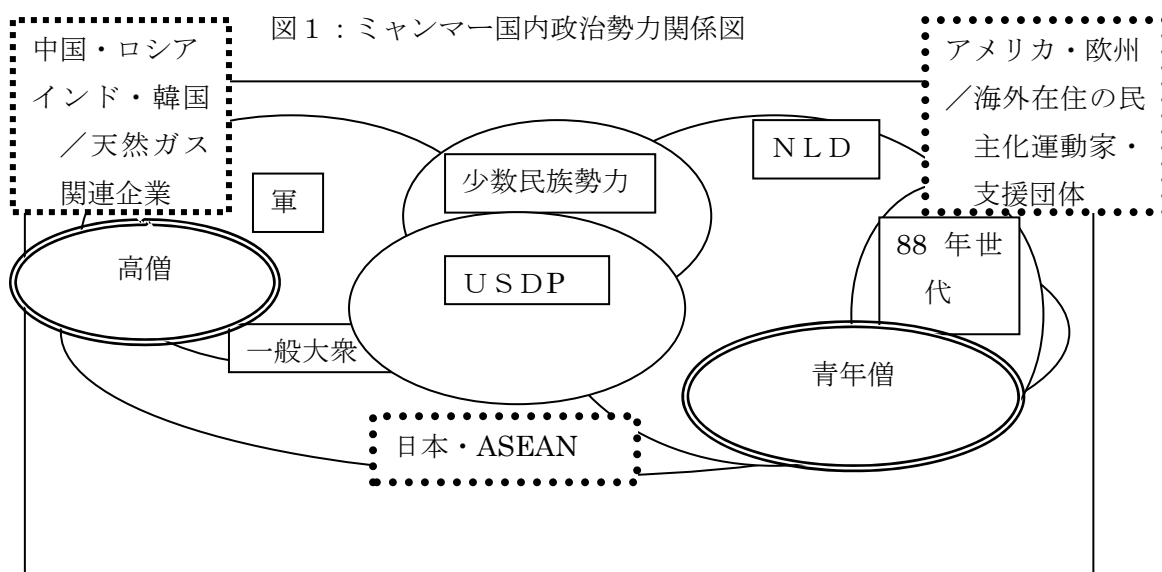
↓

軍とアウンサンスーチーの雪解けは続くのか？

ミャンマー政治の今後は？

ミャンマーの民主化のゆくえは？

I ミャンマー政治の勢力構図（国内アクターを中心に）



(1) 国内アクターの基本的対立図式 (図1 参照)

90年総選挙結果

軍 (SPDC) VS. アウンサンスーチー (NLD)

軍 (SPDC)・連邦団結発展協会 USDA VS. アウンサンスーチー (NLD)・88年世代

① 軍 (SPDC) の現状

* 民主化・政治に関する基本姿勢 (90年総選挙結果の無視、軍主導の民主化、軍の政治的影響力の確保、国民政治の体現者としての軍)
+ 経済的権益
→一枚岩。

* キンニョン首相失脚 (2004) → 軍部内での実践派の実権確立。

* 独立以降、最も軍部独裁的性格が強い=強硬。

② アウンサンスーチー (NLD) の現状

* アウンサンスーチー中心 (アウンサンスーチーが解放されると、活動が活発化)。

* 90年総選挙の結果尊重

→ 制憲国民会議の否定。

③ USDA の現状 (一般的見方)

* 1993年結成、軍の大政翼賛的組織。

* GONGO (政府が組織した NGO)。

* 新憲法下では、政党として政治参加を目指す。

④ 88年世代

* アウンサンスーチー自宅軟禁中は、民主化運動の実質的活動を担う。

* 軍政そのものに対する批判が強い。

* 海外の民主化運動組織との関連性も深い。

II アウンサンスーチーの思想と行動

1 アウンサンスーチーの主張

(1) 政治論的主張

西欧近代民主主義

民主化=国家・国民の大儀→国家・国民の尊厳の回復

経済改革より政治改革が先

体制批判は少ない

(2) 道徳論的主張

規律

ビルマ人の悪しき修正の是正

アウンサンのような人間→国家・国民の尊厳の回復

(3) 少数民族問題

(4) 経済問題

(6) 父アウンサンについて



「精神の革命」

2 アウンサンスーチーの目指すもの

(1) 現状認識：①恐れという感情による人々の墮落

②独裁者による伝統・文化・価値の独占・支配

③独裁者によるナショナリズム（愛国心）の悪用〔狭隘なナショナリズムの鼓舞〕



国家・国民の尊厳の喪失



尊厳回復のためには＝「第二の独立闘争」「アウンサンの道を歩め」

(2) 民主化は、そのための手段＝民主化闘争は目的でもあり手段でもある

3 どうやって？＝アウンサンスーチー思想のバックボーン

(1) 父アウンサンから

* 「アウンサンの道」＝固定したものは無い

* 「真理の追究」、国家・国民のために誠実さと忍耐、勇気をもって自らの使命を果たす。

* 思想と行動の一致

(2) マハトマ・ガンディーの影響

* 「恐れからの解放」「自治の精神」→地方遊説「恐れるな」、規律・自己抑制

* 真理の実現の場としての政治＝政治と倫理の結合→民主主義・人権の基盤としての「慈悲」、仏教の社会契約説、日常生活での真理の実践

* 目的と手段の合一→非暴力・不服従、本来の目的を歪める妥協の拒否

→1990年総選挙結果の尊重

* 思想と行動の一致

(3) 仏教思想の影響

* ガンディーの「バクティ (愛)」→仏教の「慈悲」

* 「慈悲の実践」→「恐れからの解放」

* 仏教的社会契約説

* 自己鍛錬・自己の抑制



* 「大多数が認めない命令・権力に対しては、国民の義務として反抗せよ」

* 軍事政権に対する、非妥協的とも見える行動

4 アウンサンスーチーの思想と行動の射程

(1) 政治と倫理＝政治における「慈悲」

(2) 「東洋」と「西洋」の調和的融合

(3) 民主化へのプロセス：「アジア的価値論」への問題提起・挑戦

5 今回の対応は

- ・ 1990年総選挙結果の反故を認める
- ・ 新憲法の実質的容認（軍の政治的影響力確保の実質的容認）
- ・ 総選挙結果の容認

III 今後の展望

- ・ 軍の政治姿勢は？
- ・ アウンサンスーチーの動向は？
- ・ ミャンマー的民主化？

参考資料：アウンサンスーチー略歴

1945年6月19日	ヤンゴン市に生まれる。
1945～57年	ヤンゴン市の St. フランシス修道会学校で学ぶ。
1957～60年	ヤンゴン市イギリス・メソジスト高等学校にて学ぶ。
1960年	在インド・ミャンマー大使に任命された母とともに、インドのデリーへ行く。
1960～61年	デリー市のキリスト・メリー修道会学校で学ぶ。
1962～63年	デリー大学、レディ・スリ・ラム・カレッジで政治学を学ぶ。
1964～67年	オックスフォード大学、St. ヒュー・カレッジで政治経済学を学び、学士号取得。
1968年	ロンドン大学アジア・アフリカ研究所政治学部で、研究助手を務める。
1969～71年	ニューヨーク国連事務局行財政委員会の書記官補を務める。
1972年	マイケル・アリスと結婚。
1972～73年	ブータン外務省研究員を務める。
1975～77年	オックスフォード大学ポーダリアン図書館で、編纂研究員を務める。
1985～86年	京都大学・東南アジア研究センターの研究員を務める。
1987年	インドのシムラで、インド教育省の特別研究員を務める。
1988年4月	母の看病のためヤンゴンへ戻る。
* 1989年7月20日	自宅軟禁。
1991年7月19日	サハロフ賞受賞。
1991年10月14日	ノーベル平和賞受賞。
1995年7月10日	自宅軟禁から解放。
* 2000年9月21日	逮捕、自宅軟禁。
2002年5月6日	自宅軟禁解除。
* 2003年5月30日	保護、自宅軟禁。
2008年5月10日	新憲法に関する国民投票実施。→新憲法承認。
2010年11月7日	総選挙実施。
2011年3月30日	新政権誕生。テインセイン大統領。
* 2011年11月13日	自宅軟禁から解放。
2012年4月	補欠選挙立候補、当選。